

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

「珍しい税」

足立区立 西新井中学校

三年 岡本 理桜

私はうさぎを飼っていて、うさぎについていろいろな情報を見ていたところ、昔「うさぎ税」というものがあつたことを知り、調べてみました。

明治時代、海外から輸入されたうさぎは珍しい動物として人気となり、高い値段で売買されるようになりました。ブームが過熱したため、これを抑えるために「うさぎ税」が導入され、一羽につき毎月一円（現在の価値で一万円）が課されました。

似たものとして、「犬税」というものもありました。課税方法は、県ごとに異なっており、犬一頭いくらかが一律で決められているケースや、飼育するエリアや飼育する目的によって課税するかどうかや税率が変わったりするケースもあつたそうです。犬税も明治時代に導入されたのですが、実は昭和五十年代まで存在していました。

これをきっかけに世界の珍しい税について興味を持ったので、詳しく調べてみました。

私が一番驚いた税は、ブルガリアで一九六八年から二十二年間導入されていた「独身税」です。目的は、結婚して出生率を増やすためのもので、独身の人には収入に一定の税金をかけるというものでした。日本でも、一時期ある自治体が導入を検

討していると話題になったそうです。私にとっては衝撃的でした。

ほかにも面白い税がたくさんあり、ヨーロッパの各国では昔「窓税」というものがありました。窓税とは、建物についている窓の数に応じて税金をかけるというものです。そのため、富裕層は窓を増やして税金を払い、経済的に余裕のない人は窓を板などでふさいだり、新築の建物についてはできるだけ窓の少ないものにしたりました。結果として、換気性が悪くなり、病気が増えたり、美観が損なわれたりなどの問題が発生することになったようです。最終的にデメリットのほうが多くなってしまう、面白いなと思いました。

国民の健康維持のため、肥満防止目的の税金がある国はいくつかあります。ハンガリーには「ポテトチップス税」。ポテトチップスだけでなく、スナック菓子や清涼飲料水など、糖分や塩分の高い食品が対象になっています。アメリカでは「ソーダ税」。これにより、低所得者による清涼飲料水の消費量は減少しました。デンマークでは「脂肪税」。二・三%以上の飽和脂肪酸を含む食品、バター、チーズ、牛乳、肉などを含む食品が対象となりましたが、管理コストの増大や低所得者の悪影響が危惧され、およそ一年間で廃止されました。

税金とは、国や自治体の運営のために払うものだと思っただけでしたが、増えすぎて困るものや健康に悪影響のものを抑制するために導入されることもあるのだと知りました。今まで関心が薄かった税について、これからはニュースなどでも興味を持って見ていきたいと思っています。